

平成22年6月6日
日本臨床漢方医会

— 鍼灸の基礎 —

石野 尚吾

東洋医学

薬物療法

漢方薬など

物理療法

鍼灸 按摩など

Fig. 1.

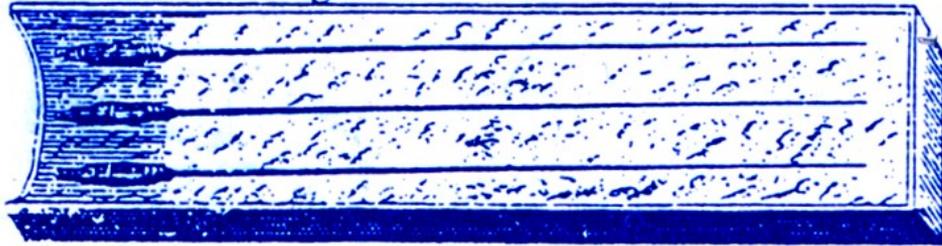


Fig. 3.



Fig. 2.



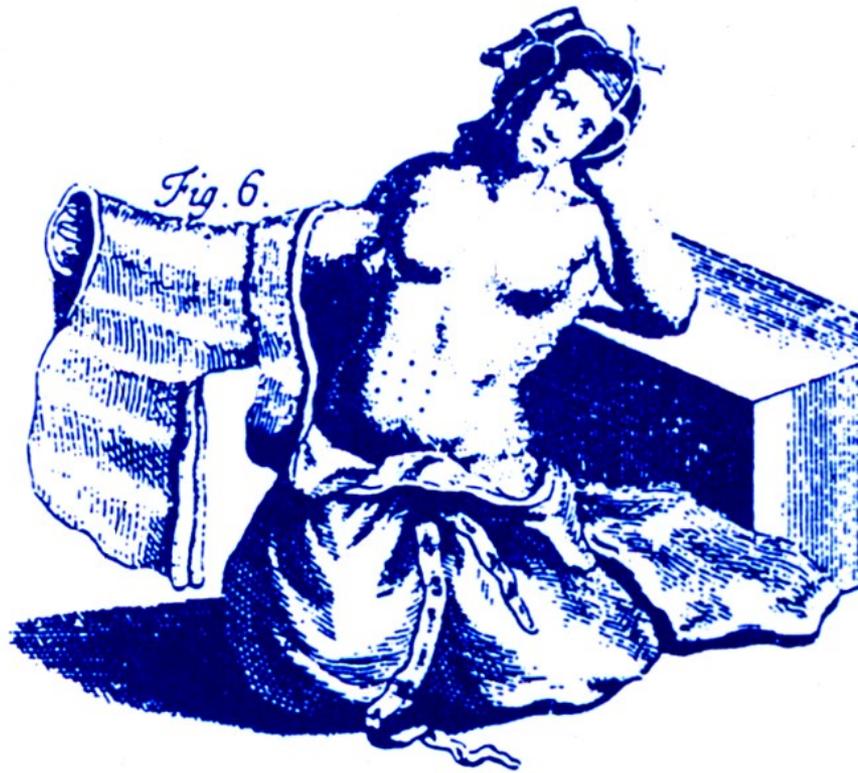
Fig. 4.



Fig. 5.



Fig. 6.



Acupuncture Japonum.

鍼灸治療の特徴

- 1 経穴を目標に治療をする
- 2 経絡の存在
- 3 鍼・艾などの道具を使用する
- 4 医学大系がある

鍼灸の定義

- 1 鍼を9種類に区分して 刺す針 切開 瀉血するはり 擦過・圧迫する鍼に分類している。(霊枢 九鍼十二原論)
- 2 「体表面のツボという特定部位に刺激を加え、それによって生ずる生体反応を利用して疾患を治そうとする体表面理学療法である。刺激はなんでもよいのであって、たまたまハリがその代表になっている。」(兵頭正義)
- 3 (1) 古典的な毫鍼をもって行う治療を骨子とし
(2) 併せて変法と考えられる種々の方法—電気鍼、経穴に対する注射療法 ツボに対する理学的療法も考慮する。(間中喜雄)

以上、その定義は時代・人により様々である

鍼の定義

「鍼術とは一定の方式に従い、鍼をもって身体表面の一定部位に、接触または刺刺、刺入し、生体に一定の機械刺激を与え、それによって起こる効果的な生体反応を利用し、生活機能の変調を矯正し、保健および疾病の予防または治療に広く応用する施術である」

(教科書執筆小委員会)

灸の定義

「灸術とは一定の方式に従い、艾を燃焼させ、またはこれに代わる物質を用いて、身体表面の一定部位に温熱刺激を与えて、それによって起こる効果的な生体反応を利用し、生活機能の変調を矯正し、保健および疾病の予防または治療に広く応用する施術である」

(教科書執筆小委員会)

我国における鍼灸治療の流れ

1 伝統医学的鍼灸治療

- 日本の伝統派
- 中医学派

2 現代医学的鍼灸治療

我国における鍼灸教育と資格

区分	教育制度	資格
はり師	有	国家資格
きゅう師	有	国家資格
医師	無	医師は制度上 鍼灸治療可

四診

望診・・・視覚による(舌診を含む)

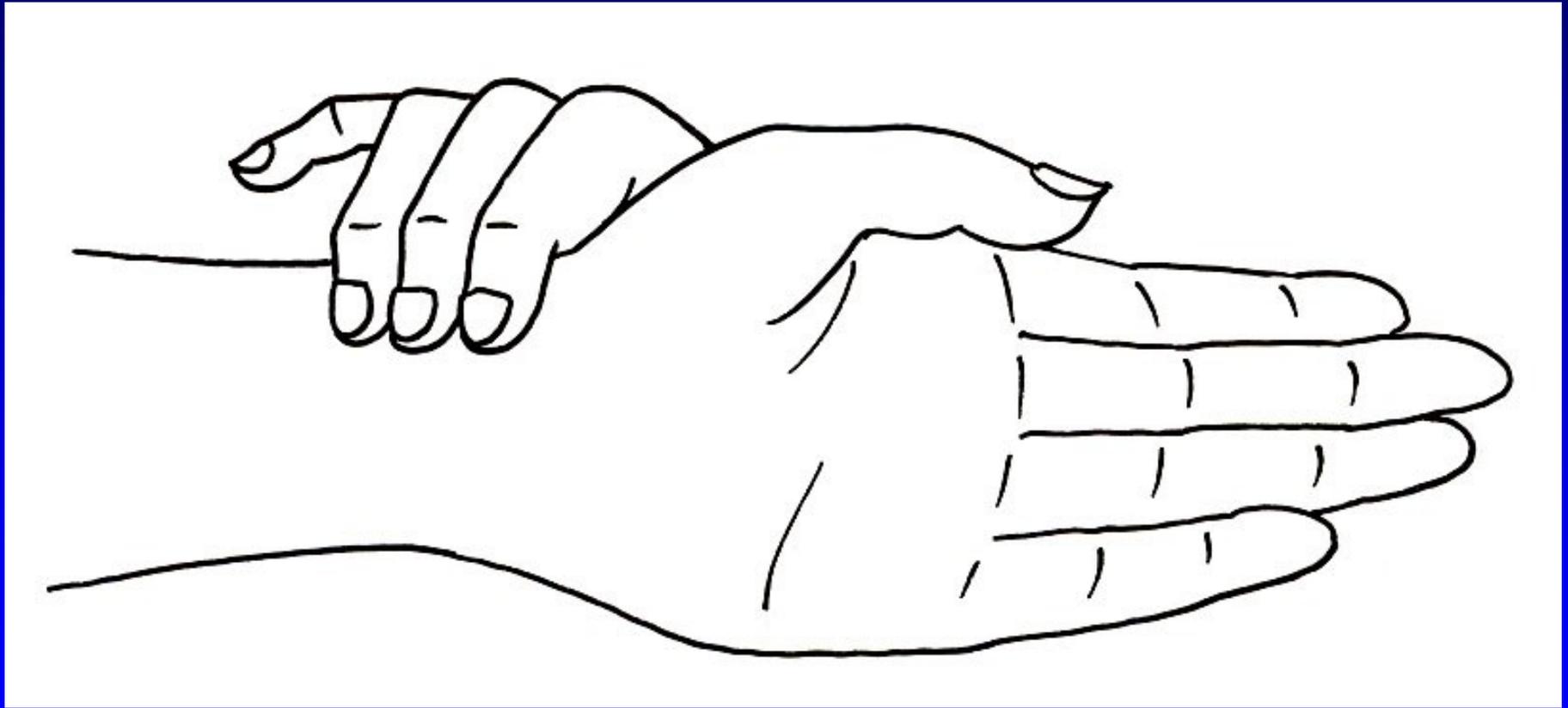
聞診・・・聴覚(臭覚)による

問診・・・診断に必要な事項を問う

切診・・・脈診: 経絡と臓腑の関係

腹診・・・瘀血などを見る

脈診



三部九候の脈診部位

左手

右手



小腸 — 心
胆 — 肝
膀胱 — 腎

(寸口)
(関上)
(尺中)

肺 — 大腸
脾 — 胃
心包 — 三焦

表 裏
腑 臟

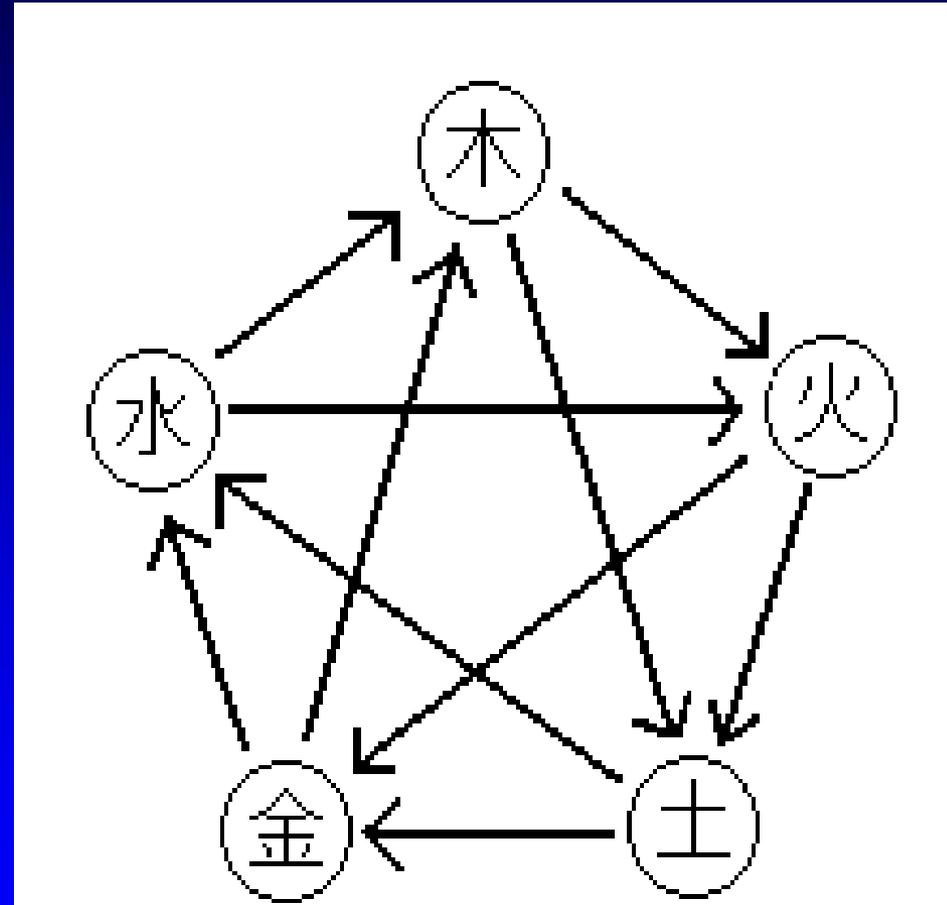
五行の相性相剋関係

相性(相手の働きを高める)

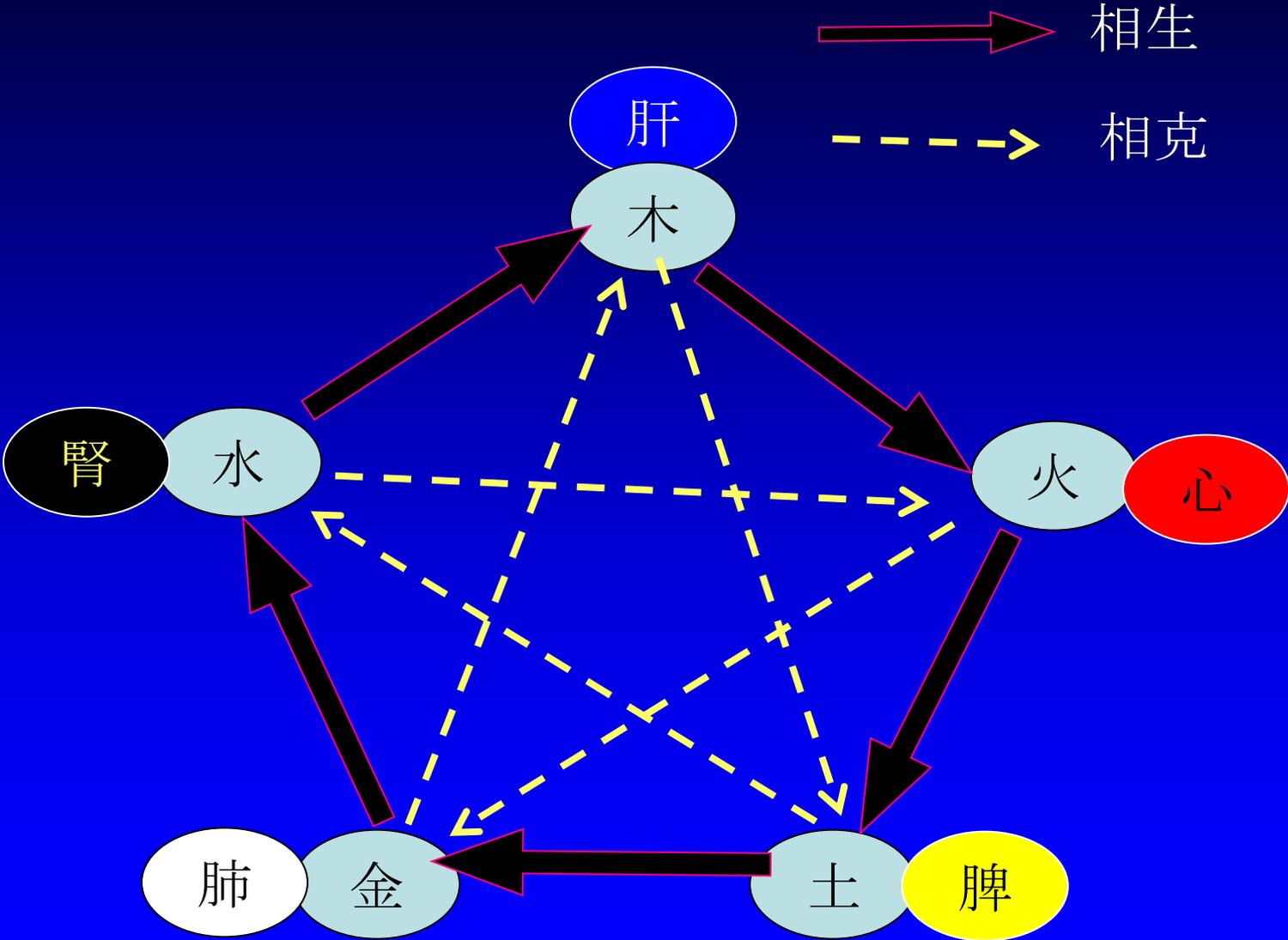
- 木生火 木を燃やして火を得る。
- 火生土 物が燃えて灰ができる。
- 土生金 金属は土の中から採れる。
- 金生水 金属の表面に水滴がたまる。
- 水生木 木は水を吸って成長する。

相剋(相手とぶつかりあう)

- 木剋土 木の根が土を傷める。
- 火剋金 火は金属溶かす。
- 土剋水 土は水を堰止める。
- 金剋木 斧は木を倒す。
- 水剋火 水は火を消す。



五行の相生・相克



経絡(けいらく)

経脈(身体を上下に直行する脈)と、

絡脈(左右に横行し経脈を連鎖する脈)の略称

全身にくまなく網の目のように分布している。

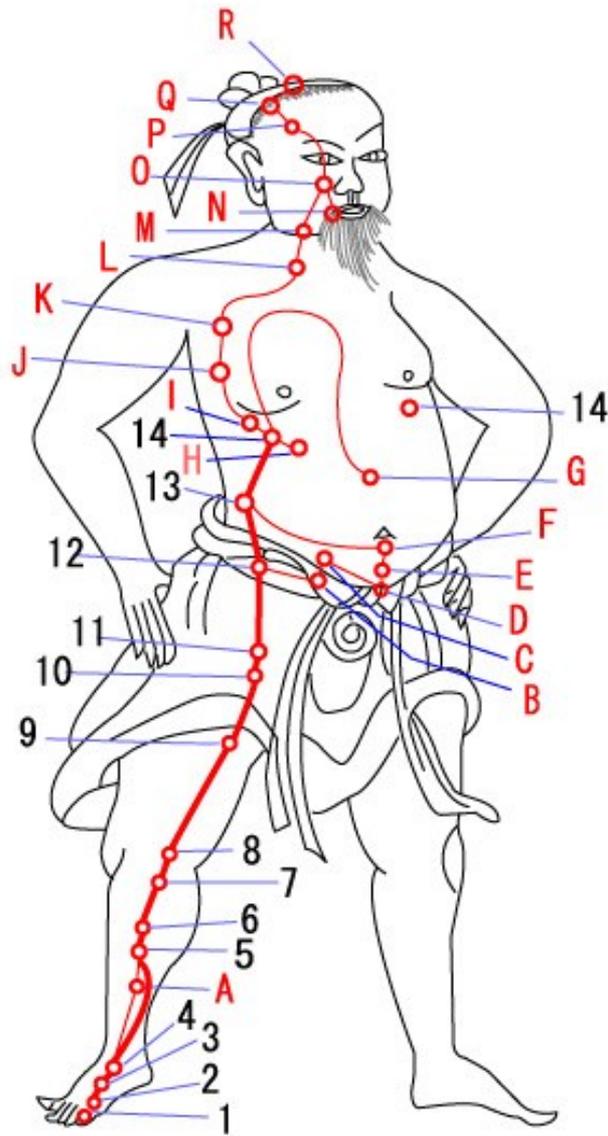
気・血を全身に運び健康状態を維持す

現代医学の病理・解剖学的には存在しない。

足の厥陰肝経

経穴名

経穴名



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

太敦
行間
太衝
中封
蠡溝
中都
膝関
曲泉
陰包
五里

- 11
- 12
- 13
- 14

陰廉
急脈
章門
期門

鍼灸治療の効果

- 1 鎮痛作用
- 2 自律神経調節作用
- 3 血流改善作用
- 4 免疫作用
- 5 その他

鍼灸の鎮痛効果

1. 局所経穴の疼痛に対する鍼灸の効果は軸索反射によって誘起(武重千冬)
2. 遠隔部位の経穴の鎮痛効果は視床下部を中枢とする体性・自律反射による(武重千冬)
3. 低周波通電鍼刺激による下行性抑制系の活動により中枢でエンドロフィンが生産され、鎮痛効果を発揮する(武重千冬)
4. Gate control theory
5. 自律神経の興奮性を変化させ、痛みのインパルスが局所的に修復される鍼刺激の鎮痛効果について諸説があり今後の課題が現状

鍼灸治療の目標

1 疾患の治癒・改善を目標

器質的な変化少ない、それによる不定愁訴

2 疾患は治療対策ではない

変形・退化・腫瘍 2次的症状の軽減

3 現代医学に治療困難な疾患症状に治療の

可能性を求める

鍼灸の血流動態に対する効果

- 1 血管経の増大
- 2 微小循環系血流の増加
- 3 周期的血流の動揺により組織への酸素供給をより一層効果的にする

安全性について

鍼灸治療の有害事象として過誤と有害反応(副作用)がある

WHOのガイドラインに準拠し、適切な教育と研修を受け行えば鍼灸の副作用は薬剤等に比較すると軽症、一過性のことが多い

予期せぬ危険性、折鍼、感染、逆効果、痛み、不快感
重要臓器への不慮の傷害などを念頭において対処すべきである。

現代医薬との併用時の注意

糖尿病患者には透熱灸は厳重注意

抗血小板薬(アスピリン)抗凝固薬
(ヘパリン)使用患者・出血性疾患
患者への深刺鍼禁忌

臨床上体験すること

比較的短期間

長期間要するもの

疼痛の寛解

体質の調整

こりの緩和

喘息 湿疹

足腰冷えの改善

蕁麻疹 下痢しやすい

消化器系の不快感

風邪を引きやすい

のぼせ・いらいら

月経不順 月経困難症

鍼灸治療の失敗

(技術、知識、経験)

脳貧血 — 姿勢

しびれ — 太い鍼、刺激時間、操作の劣悪

流産 — 下腹部、腰部その他

気胸 — 胸背部

全体のバランスの欠如 — 調整、誘導

灸負け、灸あたり — 病状・体質・体力判定

鍼の禁忌

症状: 高熱 伝染性疾患 過飲 過食
過労 過興奮 極度衰弱 出血傾向

区域: 瞳孔 肺 心臓 大泉門(乳児)
胆嚢 脊髄実質 妊婦の下肢・腰部

偶発事故

軽度ショック 血腫 抜去困難
折鍼 神経損傷 後遺感

現代医学との関連性

現代医学各科との関連性

アレルギー科	気管支喘息 ハウスシック症候群
内科	循環器科 消化器科 呼吸器科 代謝疾患
外科	悪性腫瘍術後
整形外科	腰痛症 変形性膝関節症 スポーツ外傷
皮膚科	円形脱毛症 アトピー性皮膚炎 帯状疱疹後神経痛
ペインクリニック	疼痛管理
婦人科	月経痛 胎児位置異常 更年期障害
耳鼻咽喉科	耳鳴 めまい 突発性難聴
泌尿器科	尿失禁 陰萎
形成外科:美容外科	局所循環障害

鍼灸科と病院各科との併診例

鍼灸科	←→	西洋各科
レントゲン検査	→	放射線科
変形性膝関節症	←→	整形外科(リハビリ)
円形脱毛症	←→	皮膚科
突発性難聴	←→	耳鼻咽喉科
帯状疱疹後神経痛	←→	皮膚科
悪性腫瘍術後	←→	外科
疼痛管理の補完など	←	入院各科
胎児位置異常矯正	←	産婦人科
局所循環障害	←	形成外科・美容外科

鍼灸治療が有効な疼痛の型と疾患・症状

疼痛の型	疾患・症状
自律神経失調方疼痛	自律神経失調症に伴う不安定・全身性疼痛。腹腔内臓器の軽い痛または疝痛など
慢性体型方疼痛	肩こり肩背痛、偏頭痛、慢性頭痛、月経痛、帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛など
代謝障害型疼痛	慢性関節リウマチ、糖尿病性神経痛など
筋緊張性疼痛	筋収縮性疼痛、頭重感、筋筋膜性腰痛など
不定愁訴疼痛	老人性疼痛(膝、腰、複合型)腫瘍関連の鈍痛、診断のつかない疼痛など

鍼の禁忌

症状: 高熱 感染性疾患 過飲 過食
過労 過興奮 極度衰弱 出血傾向

区域: 瞳孔 肺 心臓 大泉門(乳児)
胆嚢 脊髄実質 妊婦の下肢・腰部

偶発事故

軽度ショック 血腫 抜去困難 折鍼
後遺感 気胸 神経損傷

透熱灸、温灸の作用機転

透熱灸は神経に作用し
反射的に遠隔部の血管を拡張し

温灸は伝導熱・輻射熱により
直接局部の血管を拡張させる

鍼灸の相違点

	鍼	灸
発現	速効	緩徐
持続	一時的	永続的
適応	急性疾患	慢性疾患
効果	瀉	補
病態	実	虚

鍼の禁忌

症状: 高熱 伝染性疾患 過飲 過食
過労 過興奮 極度衰弱 出血傾向

区域: 瞳孔 肺 心臓 大泉門(乳児)
胆嚢 脊髄実質 妊婦の下肢・腰部

偶発事故

軽度ショック 血腫 抜去困難

折鍼 神経損傷 後遺感

鍼灸治療の失敗

(技術、知識、経験)

脳貧血—姿勢

しびれ—太い鍼、刺激時間、操作の劣悪

流産 — 下腹部、腰部その他

気胸 — 胸背部

全体のバランスの欠如—調整、誘導

灸負け、灸あたり—病状・体質・体力判定

臨床上体験すること

比較的短期間

長期間要するもの

疼痛の寛解

体質の調整

こりの緩和

喘息 湿疹

足腰冷えの改善

蕁麻疹 下痢しやすい

消化器系の不快感

風邪を引きやすい

のぼせ・いらいら

月経不順 月経困難症

鍼灸治療の実際(道具)

鍼

材質：金 銀 合金 ステンレス

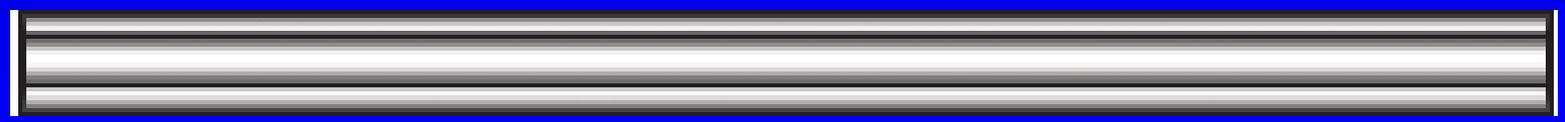
種類：毫鍼 接触鍼(小児鍼)

皮内鍼 梅花鍼 三稜鍼

毫鍼と鍼管

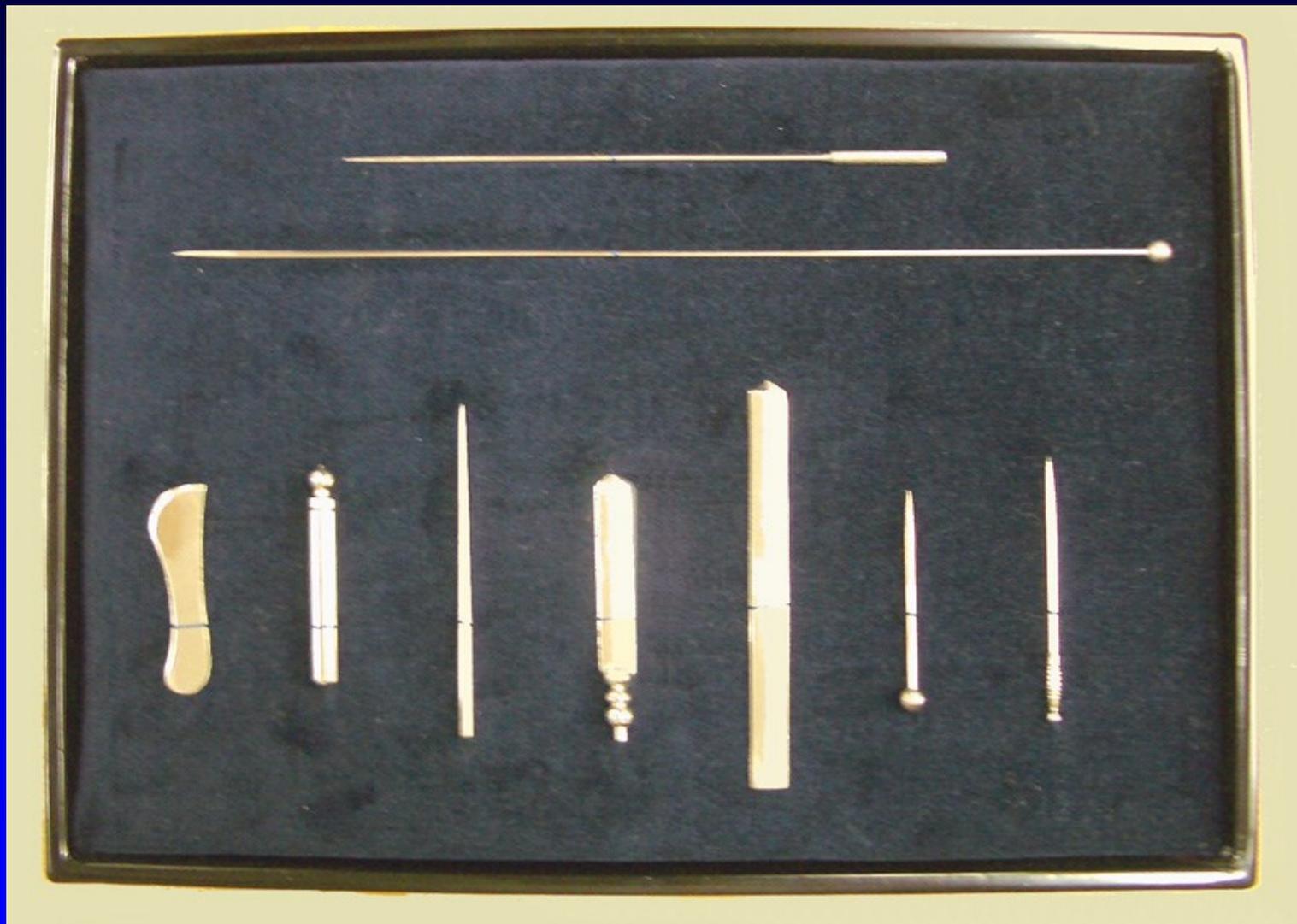


毫鍼の各部の名称



鍼管

九 鍼



灸術の種類

有痕灸

透熱灸：熱を深部に通す（米粒大・半米粒大）

焼灼灸：施灸部位を焦がし破壊する
（イボ・ウオノメ・タコなど）

打膿灸：施灸後、発砲膏等を用いて、
化膿を促し排膿する

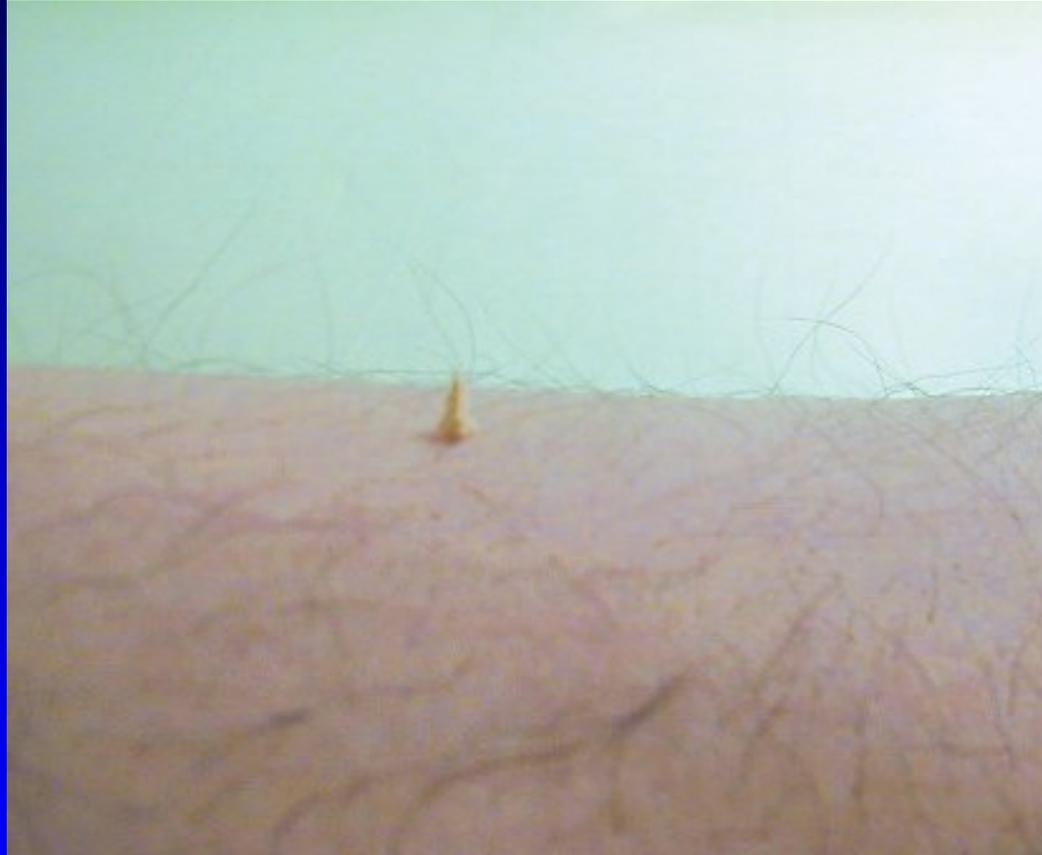
無痕灸

隔物灸：味噌灸 生姜灸 塩灸 枇杷の葉灸等

温灸：知熱灸 棒灸（押灸） 器械灸（温灸器）等

その他：水灸 漆灸 紅灸 墨灸 油灸 薬灸

透熱灸



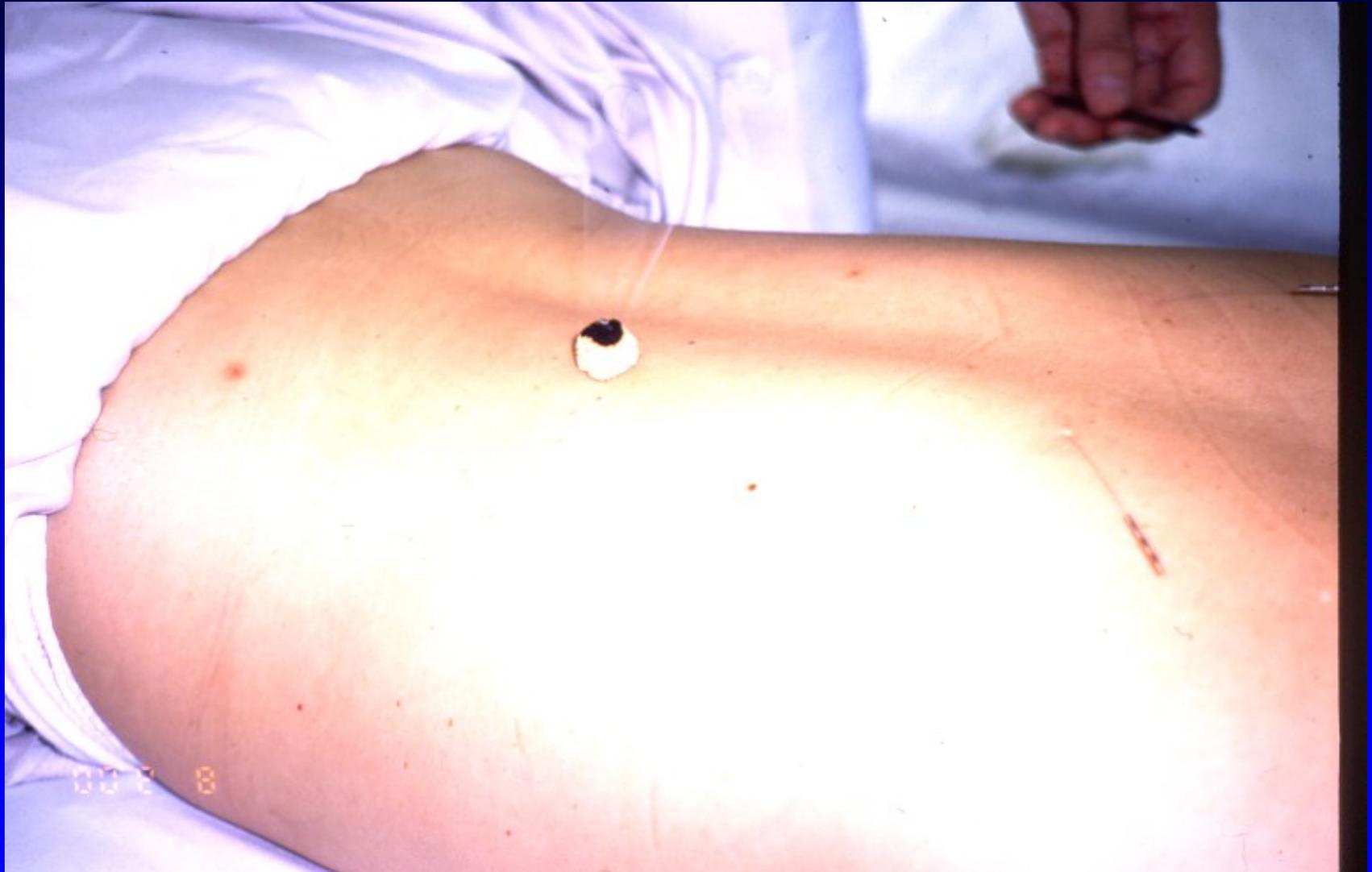
透熱灸



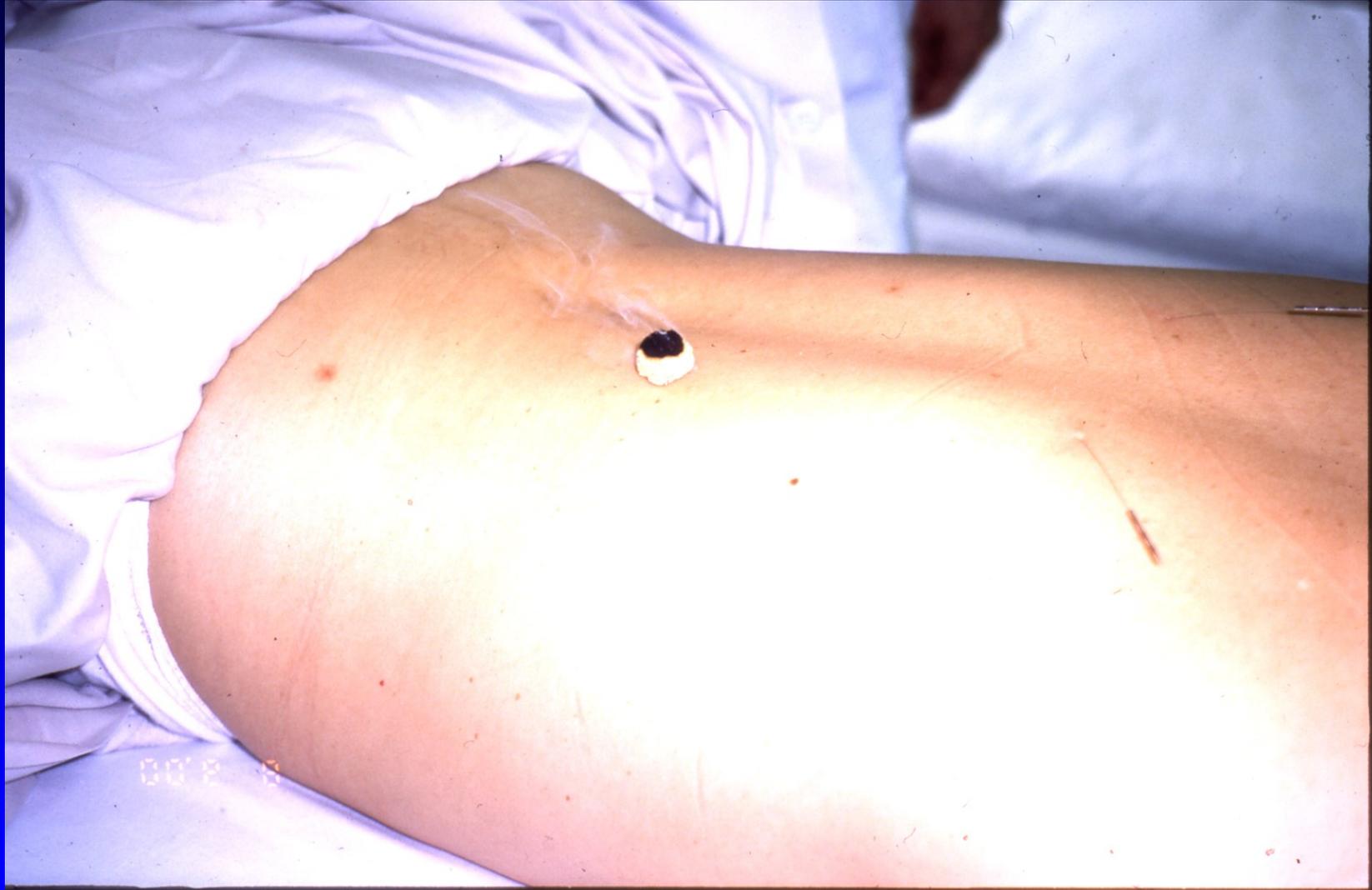
知熱灸



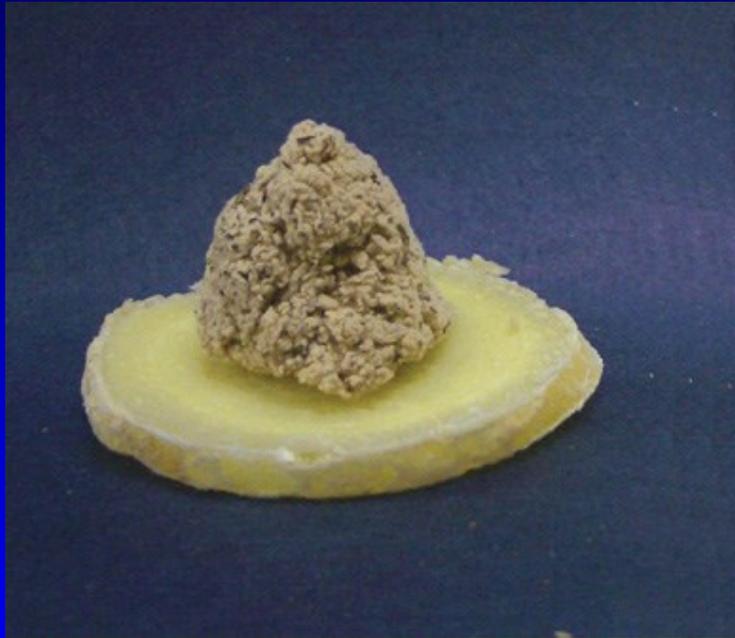
知熱灸



知熱灸



隔物灸(生姜灸・塩灸)



棒灸



艾の燃焼温度

半米粒大：60～73℃

米粒大：75～80℃

小切艾：75℃